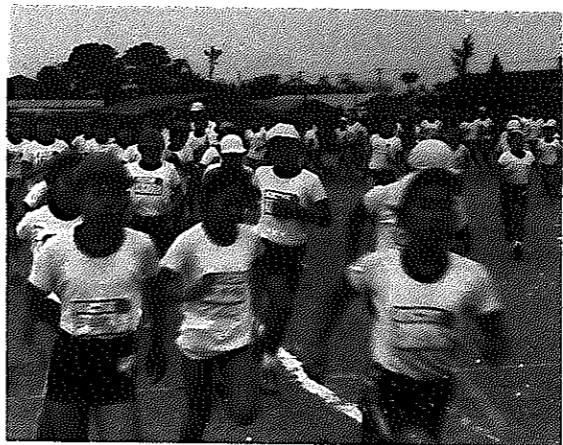


# 生き生き伸び伸び大鷲の子

昭和五十九年度に「体力づくり推進校」として、文部省と市教育委員会から指定を受けた大鷲小学校では、十月二十八日、三年間の研究結果の発表会を開きました。県内外から参加した約二百五十人の先生と父兄は、①各種大会の成績がよくなった ②集団行動がすばらしくなった ③学校生活にリズムや張りが出てきた ④給食を残さないようになってきた—などの研究成果と、公開授業などに表れた実践内容に拍手を送っていました。



いきいきタイムでの「3分間マラソン」

校舎へ入ると、いきなり「おはようございます」と大きな声で、子どもたちからあいさつがあり、大鷲小学校は、五十九年四月に大郷小学校と鷲巻小学校の統合新設校として開校。それから四年目で、これだけ明るく、きびきびした校風が育ってきました。

登校途中で会った地域のかたや交通指導に当たっているかたに「おはようございます」と朝のあいさつをして学校へ行きます。始業前には、グラウンドや遊びの広場で元気よく遊んでおり、ぼんやりしている子どもは一人もいません。

このようにすばらしい同校も、指定校として研究を始めたころは、児童が学校生活の中で、体育館やグラウンドなどの広々としたところで、いっぱい使って遊んだりすることがほとんどなく、休み時間でも、教室や廊下で腰を降ろしたり、体育の授業でも「きびきびした態度や行動」が見られなかったといえます。

では、この子どもたちの積極さや明るさは、どこから育ってきたのでしょうか。指定をきっかけに、先生、児童、父兄、地域が一体となって取り組んできた結果ですが、その中から一部の内容を紹介していきます。

「ハツケヨイ、ノコッタ、ノコッタ」十月からの大鷲タイムは相撲大会です。チーム編成は、地域ごとに縦割りで行い、企画・運営は児童会の集委員会が担当します。本物の相撲と同じく行事、検査役がありきわどい勝負には「ものいい」がつき、協議の結果「取り直し」差し連え」などの判定を下しますが一勝負ごとにチームの声援と拍手がわき上がります。

この大鷲タイムは、全校集会活動を通して仲間づくりの拡大や仲間意識の高まりを図り、自主性、リーダーシップを養うことがねらいです。相撲大会のほかに、一年生を迎える会、スポーツ集会、七夕集会、クリスマス集会、豆まき集会、六年生を送る会など、いろいろな行事を行っています。

## 研究成果と今後の課題 研究紀要から

研究主題 生活化を目指す体力づくり  
—進んで体をきたえる—  
子どもの育成を日ごと—

●体力づくり部 意欲的に体力づくりに励む子  
研究開始当初、児童が教室や廊下でぶらぶらして、あまり運動しないという点については完全に解決されたと思う。

まず、体力づくり部の研究課題「意欲的に……」という点で考えてみたい。授業では、自分の運動能力に合わせて「めあて」をたてる態度が育ってきたし、学習のしかたが身についてきた。このことは、みんなで学習するには、協力してやること、安全に注意し、きまりを守ることが必要なんだということが児童に理解されたからだと思う。朝の「さわやかタイム」でも、めあてをもつてマラソンする子が目立つ。業間の「いきいきタイム」でのリズム運動が好きという児童が多い。へん多いうことや、そのリズムを児童自身で創作していくようになったことも、運動に対する意欲が進んだものと思われる。放課後の「わしの子タイム」では、タイヤの理め込みやペンキ塗りなど、父兄や職員の仕事により、遊具の整備

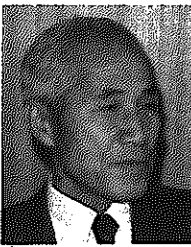
が進んだことで、子どもたちは進んで遊具に向かうようになった。もちろん、ふだんの休み時間も同様である。そのほか、学年の親子体力づくりも盛んになり、カンゲタ作りや竹馬なども作られるようになった。そうした遊具を使っている運動も、教師が何も言わなくても子どもが練習するようになったことは、児童が運動や遊びに意欲的になったことの表れだと考える。

次に、その結果、体力づくりがどんな形で表れてきているかをあげてみる。まず「さわやかタイム」で行ってきた行進が、たいへんきれいになったことがあげられる。全体に背筋が伸び、元気あふれる態度の児童が多くなった。この行進が、市の陸上大会で賞賛されたことも、このことを裏付ける。それとともに、毎朝三分間マラソンや縄跳びを行ってきたことと関連すると思われるのだが、市の陸上大会では、大量の入賞者が2年あたりから出てきた。また、スポーツテストの記録も全体的に向上してきており、体力づくりの成果だと考えられる。記録をとっている途中であるが、授業での児童の運動技能も向上してきている。

このようにすばらしい同校も、指定校として研究を始めたころは、児童が学校生活の中で、体育館やグラウンドなどの広々としたところで、いっぱい使って遊んだりすることがほとんどなく、休み時間でも、教室や廊下で腰を降ろしたり、体育の授業でも「きびきびした態度や行動」が見られなかったといえます。

では、この子どもたちの積極さや明るさは、どこから育ってきたのでしょうか。指定をきっかけに、先生、児童、父兄、地域が一体となって取り組んできた結果ですが、その中から一部の内容を紹介していきます。

## 体力づくりで明るくたくましい子に



大鷲小学校 唐沢浅治校長

10月28日の体力づくり発表会は、県内外各地から多数の先生がた、PTAのかたの参観がありました。子どもたちは、毎日やっている体力づくり活動を元気に実施しました。昨年の中間発表のときと比べて、こんなに変わったのはすばらしいと褒めていただきました。

私は、子どもたちが、目を輝かし、生き生きと主体的に取り組み、力いっぱい活動する姿を見るにつけ、研究実践に取り組んできた成果の表れと、ひそかに喜びを感じ取っています。今後も体力づくりが生活化し、生涯体育へと発展するための実践を継続していきたいと念じています。

白根市は、児童・生徒の体力づくり推進を重点としていますが、全市小学校体育祭開会式の入場行進は、各学校堂々としてりっぱにできました。本校のささやかな研究実践ではありませんが、各校、各地域での体力づくりの一部に取り入れ、実践していただければ幸いです。

課題も少なくない。まず授業では、しだいに児童の技能レベルも向上し、できた喜びを味わえるようになってきているが、まだじゅうぶんとは言えない。それに、個々の児童のめあてに対し、教師はどう見取っているのか、評価はどうあるべきなのか、といったような点についても、まだ明確な答えは出ていない。各種運動タイムにおいても、めあてをたてさせることが盛んに行われるが、それを継続し、達成させるための工夫がじゅうぶんである。そして、最も大きな問題として、「運動の生活化」が果たして家庭や地域まで浸透したかということがある。このことについて、三年間実践してきたけれども、満足な成果は得られなかった。理解は得られるものの実践化がじゅうぶんでなかった。そうした体力づくり運動が、じゅうぶんに広まらない社会の厳しさがこの地域にはある。行政の地域社会への対応も求められるが、学校は学校として今後地道に努力していくことである。

●生活づくり部 自分の体を知り、進んで健康づくりをする子  
実践を積み重ねてきた結果、まず、学級指導やカードなどの取り組みにより、健康習慣の確立が進み、う歯や肥満も減少してきた。学級指導では、う歯や手に

ついたばい菌のこわさを感じたことで、歯磨きや手洗いの必要性を理解し、以後毎日丁寧に歯を磨いたり、きれいに手を洗ったりする児童が増えている。肥満では、学校の取り組みだけでなく、家庭の理解が得られ、親子で肥満解消に取り組んでいた場合、大きな効果がでている。次に、はだし運動では、へんべい足も減少してきたが、児童一人一人が安全に心がけるようになり、体の調子が悪いときには、進んで担任に話せるようになってきている。

## いきいきタイムで気分転換

休憩時間をはさんで、一時間四十分の授業が終わると、十五分間の「いきいきタイム」です。この時間は、進んで体を動かす楽しさと、授業の気分転換をねらったもので、校歌に振り付けた大鷲体操、ブリッジ、子どもたちが創作したリズム体操などを行います。同日の発表会では、目的と心を一つにした全校生徒三百人のすばらしいリズム体操に参加者から「よくぞここまで……」の声がささやかれる中、大きな拍手が体育館に響きました。

このため、食後五分間を「いきいのタイム」と名付け、席を立たないで、大声でしゃべらないようにします。そして、月一回はその月生まれの子と児童の誕生会を開き、児童の手製のペンダント渡し、お祝いの言葉、一分間スピーチ、お礼の言葉を行います。

## 仲間意識を高め

「ハツケヨイ、ノコッタ、ノコッタ」十月からの大鷲タイムは相撲大会です。チーム編成は、地域ごとに縦割りで行い、企画・運営は児童会の集委員会が担当します。本物の相撲と同じく行事、検査役がありきわどい勝負には「ものいい」がつき、協議の結果「取り直し」差し連え」などの判定を下しますが一勝負ごとにチームの声援と拍手がわき上がります。

この大鷲タイムは、全校集会活動を通して仲間づくりの拡大や仲間意識の高まりを図り、自主性、リーダーシップを養うことがねらいです。相撲大会のほかに、一年生を迎える会、スポーツ集会、七夕集会、クリスマス集会、豆まき集会、六年生を送る会など、いろいろな行事を行っています。

食後、一定時間休養することのたいせつさを理解させ、先生や周りの友達とくつろいだ雰囲気の中で会話を楽しみ、仲間意識の高まりを深めます。

## いきいのタイムでくつろぐ

食後、一定時間休養することのたいせつさを理解させ、先生や周りの友達とくつろいだ雰囲気の中で会話を楽しみ、仲間意識の高まりを深めます。

このため、食後五分間を「いきいのタイム」と名付け、席を立たないで、大声でしゃべらないようにします。そして、月一回はその月生まれの子と児童の誕生会を開き、児童の手製のペンダント渡し、お祝いの言葉、一分間スピーチ、お礼の言葉を行います。

食後、一定時間休養することのたいせつさを理解させ、先生や周りの友達とくつろいだ雰囲気の中で会話を楽しみ、仲間意識の高まりを深めます。

## みんなと楽しく、主体的に集団活動ができる子

集団遊びや集会活動を多く経験してきた子どもたちは、仲よくみんなで、体を動かして一つのことを行う楽しさを知り、子どもにとって本来最も興味のあることを、与えられた枠の中でやるが、自分たちで計画・活動し、反省するという

経験は、たいへん有意義であった。「もっと楽しく遊ぶにはどうしたらいいだろうか」という意識が、常に子どもたちの中にあつたと見える。休み、自分たちの活動場所を生き生きと遊ぶ子どもたち。集団遊びよりも自由遊びを好み、しかも、活動的遊びも自由遊びを好み、米の姿を実現しつつある。

○同様に、大鷲タイムの集会活動でも、低学年は低学年、高学年は高学年なりに参加のしかたを考え、「○集会はいつでもおもしろかった。またやりたい」「この次の集会活動ではこういうふうにして」という気持ちでできた。いわば、仲間づくりの拡大から、仲間の質の向上へと、子どもたちの意識も高まってきたという点である。そこには、企画・運営に対する自主性、創造性を感じることができ、遊ぶ姿に本来の子どものらしさを身につけてきた子どもたちは、一つの集いを成功させるため、じゅうぶんに時間をかけて計画をたて、役割分担に沿って準備、練習を行い、しかも、役割相互の連絡を密にして、当日の活動に取り組む。集会に参加する子どもたちも、自分の役割だけやればよいという気持ちから、企画・運営や進行の担当の子どもたち、企画を考えて協力したり、だれかが困っている場面、だれからもなく助けてやるといった姿が見られるようになってきた。

## 仲間づくり部

みんなと楽しく、主体的に集団活動ができる子  
○集団遊びや集会活動を多く経験してきた子どもたちは、仲よくみんなで、体を動かして一つのことを行う楽しさを知り、子どもにとって本来最も興味のあることを、与えられた枠の中でやるが、自分たちで計画・活動し、反省するという

経験は、たいへん有意義であった。「もっと楽しく遊ぶにはどうしたらいいだろうか」という意識が、常に子どもたちの中にあつたと見える。休み、自分たちの活動場所を生き生きと遊ぶ子どもたち。集団遊びよりも自由遊びを好み、しかも、活動的遊びも自由遊びを好み、米の姿を実現しつつある。

○同様に、大鷲タイムの集会活動でも、低学年は低学年、高学年は高学年なりに参加のしかたを考え、「○集会はいつでもおもしろかった。またやりたい」「この次の集会活動ではこういうふうにして」という気持ちでできた。いわば、仲間づくりの拡大から、仲間の質の向上へと、子どもたちの意識も高まってきたという点である。そこには、企画・運営に対する自主性、創造性を感じることができ、遊ぶ姿に本来の子どものらしさを身につけてきた子どもたちは、一つの集いを成功させるため、じゅうぶんに時間をかけて計画をたて、役割分担に沿って準備、練習を行い、しかも、役割相互の連絡を密にして、当日の活動に取り組む。集会に参加する子どもたちも、自分の役割だけやればよいという気持ちから、企画・運営や進行の担当の子どもたち、企画を考えて協力したり、だれかが困っている場面、だれからもなく助けてやるといった姿が見られるようになってきた。